笑顔がつくる、はつらつ島根。

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2023.10 October vol.63-1

九月定例議会

個別最適な学び場を

10月5日で県議会9月定例会は閉会しました。提案されたすべての議案は全会一致または多数決で可決しました。多数決になったうちの『健康保険証の廃止』中止撤回と現行の保険証を残すことを求める請願」は、審議を付託された環境厚生委員会では不採択されたことに対して、私は採択すべきとの立場から委員長報告には反対しました。

また、一般質問では一問一答形式で教育を巡る課題について質問しました。

夜間中学での学び直し

夜間中学についてはこれまでも何回か質問していますが、答弁はいつも「そのような声がない」とか、「高校で学び直しをしている」などと設置しないという答弁でした。結局、今回も、「県では設置しない。市町村で設置するなら支援する」という答弁で終わりました。

この夜間中学設置の問題では、以前、松江市で開かれた元文科省事務次官の前川喜平氏さんの講演の中で「学習機会をどう作るか、義務教育からこぼれた人が百数十万人いる。学びなおしの機会となる夜間中学校が必要」と話され、事務次官退任後、文部科学省でも一県に一校の夜間中学設置を方針として出しています。その講演を聞いたのがきっかけで、夜間中学について取り上げてきたところです。近年は、不登校で十分学ぶ機会がなかった人や日本語が十分使えない外国籍の人の学び直しの場として活用されています。

隣の鳥取県では、県立の夜間中学「学びの森学園」が来年度開設されます。小さな声でも聴いて、様々な形の場を用意し、個別、適切な学びが保障される島根県であってほしいです。

学校現場の声を聴く

❤訪問された学校現場で聞く声に、どのような所感をお持ちか。

教育長　働き方改革に対する意見、不登校児童生徒の増加や学力の問題などについて伺っている。現場の意見を伺い、子どもたちの学びを第一に、前例にとらわれず柔軟に、実効性のある具体的な対策を講じることに努めている。今後も引き続き、現場の意見を丁寧に伺いながら課題解決に当たっていく。

健康保険証の廃止に異議

❤❤❤❤

『健康保険証の廃止』中止撤回と現行の保険証を残すことを求める請願」が、審議を付託された環境厚生委員会では不採択となりました。私は、採択すべきとの立場から委員長報告については反対しました。

マイナカードを巡っては、他人の情報が紐づけされるなどの問題が起き、国民の不信感を招いている中で拙速に進めるべきではないとの考えです。今、国は急速にデジタル化を進めていますが、それに慣れていない人も多く、保険証を提示することで保険診療が受けられる現状があります。

保険証を紐づけるマイナカードには医療情報だけでなく様々な個人情報が紐づけられているため、個人情報の保護について国民に丁寧な説明をしたうえで、マイナカードに保険証を紐づけるかどうか、個人が判断できるようにすべきです。本当に個人情報のなにもかもを一枚のカードに委ねるべきか、議論を尽くすべきだと思います。

【発行者】角　智子　〒690-0063 島根県松江市寺町67-23 TEL.(0852)28-8880 FAX.(0852)28-8881 E-mail:sumi@tomachan.net ホームページアドレス http://www.tomachan.net/

個別最適な学びの取組

8月28、29日の2日間、会派民主県民クラブでは広島県で個別最適な学びについて調査しました。

最初に、広島県教育委員会の個別最適な学びについての取り組みについて、義務教育指導課長及び担当者にお聞きしました。

広島県では令和元年に個別最適な学び担当が設置され、さらに令和3年に不登校支援センター、さらには、県内の不登校等の小中学生を支援する県の教育支援センターとして「SCHOOL"S"」が令和4年度に設置されています。

広島県教育委員会の担当者に聴く

子どもたちの主体的な学びの実現に向けて調査を行い、令和2年度からは4つの学校で実証研究が行われました。子どもたちはどのような形で学ぶのか自身で考えて自由進度学習に取り組み、授業を進めるにあっては担任一人に任せるのではなく、低学年、あるいは高学年の担任が一緒になって学習準備をし、また学校だけではなく、県の教育指導主事が一緒に現場で実践研究し、その報告書も指導主事が中心となって作成し、県内の学校に示すことで、他の学校での取り組みを促しています。

また、県内35校で教室以外でも学べる場、スペシャルサポートルーム（SSR）をつくり、子どもにとって安心で安全な居場所をつくることで学びの場を確保しています。それぞれ学校でいろいろと工夫しながら居場所の確保に努め、個々の状況に応じて成長する場を作っています。まさに個別最適な学びの確保に努めています。

働くことは生きること

渋沢栄一さんの曾孫にあたる農学博士の渋沢寿一さんの講演「地域から見える未来社会～渋沢栄一とSDGs～」をお聴きました。

経済発展を続けてきた現代社会は高度経済成長期の論理により、費用対効果で表せないものは価値ではないという価値観により収入を得ることが人生の目的になっている。仕事とは次世代のためにお金にはならないがやらねばならないこと、それは人と人、人と自然がつながることであり、つながるにはお互いが関心と共感を持ち合う社会、持続可能な社会を作ること。

講演される渋沢寿一さん

話される言葉、言葉にうなずき、求められる社会の構築に私たちは動いていかなければならないという思いに至りました。

これからの社会は与えられるものでなく、自分たちで考え作り上げていくもの。地に足がつき、コミュニティの中で必要とされること。自然の中でその恵みを得ながら必要最低限のモノを持つ暮らし、働くことは生きること、人生は「職業選択」ではなく「生き方づくり」と。

不登校生の支援に取組む

議会中の10月2日、民主県民クラブ主催で会派外の議員にも呼びかけ、雲南市の不登校児童生徒への教育支援に取り組む教育支援センター（おんせんキャンパス）について、雲南市教育委員会の皆さんに講義いただきました。

官民連携による誰ひとり取り残さない教育環境を目指して、センターの運営をNPO法人カタリバに委託し、ここをハブにして各機関と連携して不登校児童生徒の支援を行っています。しっかりと子どもを支え、約7割の子どもが再登校をしつつ進学を果たしています。また、高校でも不登校になった生徒へのサポートをしています。

教育支援センターを特例校に格上げするなど、今の学校のあり方を変えるべきときに来ていると話されました。

会派外からの議員の参加もあり、この研修を機会に学校のあり方についての議論が活発になることを期待しています。

雲南市教育委員会の皆さんの説明を聴く